

作成日 H 23 年 11 月 2 日作成

事務事業名	下市之瀬上宮地線街路整備事業(単独)				所属部局	建設部	単位番号	7065										
	☐ 実施計画事業				所属課室	都市計画課	課長名	新津 元博										
					所属担当	都市整備担当	担当者名	中島 司										
基本政策	基本計画体系	☐	うるおいと利便性のある都市づくり			予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目					
政策		☒ 11	道路網の整備			事業区分	01	一般	0	8	0	4	0	2	0	6	0	8
施策		☐ 18	生活関連道路の整備				☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金	☐ 施設等維持管理事業 ☐ 補助金交付事業 ☒ その他の事業										
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (18 ~ 22 年度)				法令根拠	都市計画法、道路法												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載					事業費の主な内訳 (22年度)												
	1 事業の内容					項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)						
	市の市街地西部を走る広域主要幹線道路として都市計画決定されており、まちづくり交付金事業で平成18年度から5カ年計画で整備を行っている補助事業。					公有財産購入費		1,397										
	2 事業の内訳					補償、補填及び賠償金		7,008										
	設計委託、道路改良工事、用地買収、補償																	
										計		8,405						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	道路改良工事
23年度活動予定	
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
市民 道路利用者	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
安全で快適な住環境整備を行う。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
地域経済の発展や豊かな市民生活が送れるようになる。	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 街路整備延長	m
イ	
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 都市計画決定街路の総延長	m
イ	
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 街路の整備率	%
イ	
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 道路の整備が満足と回答した市民の割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円	300	7,980					
			その他	千円							
			一般財源	千円	39	425					
			事業費計 (A)	千円	339	8,405	0	0	0	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2					
			延べ業務時間	時間	240	100					
			人件費計 (B)	千円	1,071	446	0	0	0	0	
			(A) + (B)	千円	1,410	8,851	0	0	0	0	
活動指標	アイウ	m	15,928.0	16,088.0							
対象指標	アイウ	m	20,780.0	20,780.0							
成果指標	アイウ	%	77.0	77.0							
上位成果指標	アイ	%	44.0								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	都市計画道路下市之瀬上宮地線は、平成2年4月に延長2,450m幅員16mで都市計画決定した路線であり、今までに1,880mが供用開始され、今回残り570mを整備する事業である。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	本都市計画道路は、市の外環を形成する主要幹線であるため、市内の利用者から多大な期待がなされている。
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	本都市計画道路は、第1次南アルプス市総合計画の道路プログラムに位置付けられた重要な街路である。よって早期の完成が望まれている。

(4) 改革改善の取り組み状況

4-7 改革改善の取り組み実施は？ これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	☒ 取り組みしている 【内容↓】 ☐ 取り組みしていない 【理由↓】 経済性及び景観を重視し事業を実施してきた。
H 22年度に実施した改革改善の内容	擁壁工についてコスト縮減を図った。周辺の景観に配慮する方策として大型擁壁が目立たないように塗装を施した。

事務事業名	下市之瀬上宮地線街路整備事業(単独)	所属部	建設部	所属課	都市計画課
-------	--------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている 【理由↓】 この事務事業の目的は、幹線道路の整備であり、上位計画である、南アルプス市「道路整備に関するプログラム」に位置づけられている。
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である 【理由↓】 市の計画的な基盤整備の一環であり、市が主体になって行うのは当然である。
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である 【理由↓】 南アルプス市「道路整備に関するプログラム」に位置づけられている、幹線道路の整備であるため、適切である。
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 事業の進め方として、一つは、高率補助金事業の導入であり、二つ目は、出来る限り、県において事業を実施していただく方向に持っていけないか要望する。
	類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない 【理由↓】 本事業は、都市計画道路であり、都市計画決定を経て事業を実施しなければならない。 ☐ 類似事務事業がない
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 市の計画的な基盤整備が出来なくなる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 住民の要望が強い。
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 削減余地がない 【理由↓】 道路詳細設計の見直し及び、構造物の見直し。
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 市の技術職員が管理、監督を行うのが一番経費削減である。
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 市の計画的な基盤整備であり、市民全員を対象に事業を進めているため公平公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	まちづくり交付金の最終年度である。南アルプス市「道路整備に関するプログラム」に位置づけられている、幹線道路の整備であるため、目的、公正性は適切である。工事は集中し時間的にも厳しい工程であったが、道路改良工事を年度内に完成することができた。舗装工事については、現場に盛土部分が多く道路沈下が予測されることからやむを得ず繰り越した。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☒ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性、 、 の結果) ☒ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☒ 必要性検討(目的妥当性、 、 の結果) ☒ コスト削減(効率性、 の結果) (2) 改革改善案について 県営事業として整備していただく。 高率補助の模索を行う。 設計の段階でコスト削減を図る。		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☒</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☒	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☒	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 県道韮崎南アルプス豊富線の代替路線として県に認めていただく手腕を検討する。 県に指導を仰ぎ高率補助事業を検討する。 贅沢な製品は使わないようにする。		(5) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 対象外 コスト削減優先度評価結果 対象外																						